

# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

今年も松川河川敷内のサクラが寒風の中咲き始めた。多くのサクラは、冬を越してから花を咲かせる。夏の間は葉を茂らせ、たっぷ

り日光を浴びて養分を蓄え、紅葉も楽しませてくれる。つぼみは夏の間でき、秋に開花すると冬が来て種子ができなくなるので「越冬芽」が休眠状態をつくり、冬を越して花を咲かせるのだが、この時期の開花したサクラを覗いていると逆境の中、懸命に生きていく姿がなぜか心を打ち、勇気づけられる。

白馬大橋からの河川敷内の道路では、スケートボードを大勢のプレーヤーが楽しんでいる。路面にポイント設置など工夫すれば、魅力ある河川敷内の活用になるのではと思っ

てしまう。

冬物の衣類を用意する時期になった。ヒートテック機能の衣料に魅力を感じ購入意欲を掻き立てられるのだが、最近「サステナブルファッション」の言葉が持続可能で、地球環境に配慮した装いとして注目され、考

## 地球環境に優しい衣料を 考える事も必要だ

福島民報のコラムあぶくま抄さんは、ファッションは、人々の心を豊かにする。一方で、衣服の大量生産、大量消費は地球に大きな負荷を与えている。一着を作るのに消費する水の量は約2300リットルと推計され浴槽11杯分にも及ぶ。排出される二酸化炭素は約25・5リットル、ペットボトル250本を製造する量に当たるといわれる。相当の量だと環境への悪影響を避ける取り組みの重要性を伝え

「優しいね」と言える、地域環境への心掛けは、家族や友人との衣料の共有や交換がきっかけで、多くの場所での人の往来が増え、コロナ禍の行動規制が緩和されて、多くの

期に植物学者大久保三郎さんが名づけた、地中海原産の花だが、いまでは「シクラメン」として誰もが知る花だ。花キ業界が苦しんでいる中、積極的な購入で、少しでも地域を明るくしてほしいと願っています。



降雪を待つニンニク、春の雪解け水が栽培に価値観を生み出す

(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)